

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

| | |
|--------|-------|
| 市町村名 | 能勢町 |
| 実践研究校名 | 岐尼小学校 |

【公開授業】公開日：平成25年10月15日

対象学年：第6学年

| | |
|--|--|
| (教材・教科書名) 英語ノート2 (単元名) オリジナルの劇をつくろう | (本時の指導の目標) ・友だちとのコミュニケーションを楽しみながら、オリジナルの劇を発表できる。 ・友だちの発表を積極的に聞いて応えることができる。 |
|--|--|

(本時の授業において工夫した点)

- ・授業のはじめのウォーミングアップでは、基本表現をフラッシュカードやスライドを使って楽しく発話させた。
- ・発表の前にグループでの練習時間を十分に設け、一人ひとりの児童が友だちと楽しみながら自己表現できるよう支援した。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・劇の内容をグループで決めただけではなく、衣装を自由に工夫させたこともあり、児童が友だちと楽しみながら英語を用いて発表できた。
- ・友だちと一緒に演じることで普段は声が出にくい児童も自信をもって発表できていたのが良かった。

【研究協議会】

| | |
|---|--|
| (テーマ) 高学年の児童が外国語を通して生き生きと自己表現するための授業づくりについて (表現内容・表現方法・授業形態の工夫を中心に) | (指導・助言者) 大阪教育大学 加賀田 哲也 教授 能勢町教育委員会 遠藤 克俊 |
|---|--|

(研究協議会で出された意見)

- ・劇の基本表現のパターンがある程度決まっていたので、児童も自信を持って発表できていた。
- ・劇の「聞き手」のポイント (pay attention・respond) をしっかり確認していたので聞き手のフィードバックがあり、良い雰囲気での授業が進んでいた。

(まとめ)

1. 児童のオリジナリティを發揮させるために、自分だけの台詞を考えさせるなどの工夫もあるとより豊かな表現につながるのではないかと。
2. ALT と AET の役割分担をもっと具体的に検討し、よりよい連携を進めていくことで、より「正確な」表現方法を児童に提示できるのではないかと。